

東海大学 vs 東京国際大学

5月19日(日)
11:30K.O.
東海大G

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 2 部リーグ

第 8 節 東海大学 vs 東京国際大学の試合は

東海大学からの出場辞退の申し出を受けたため、東海大学の不戦敗 (0-3) となります。

法政大学 vs 関東学院大学

5月19日(日)
13:50K.O.
東海大G

前節、4 試合ぶりの勝利を飾った法大と、東海大の出場辞退により不戦勝で 1 週間のブランクがある関学大との対戦。想定外の状況がどのような影響を及ぼすか。

法大は前節、神大と対戦して 2-1 と接戦をモノにし、ようやく今季 2 勝目を挙げた。最下位にも転落し苦境に立たされたが、ここで思い切って布陣を 3-4-1-2 に変更し、中盤でのボール奪取力を高めることに成功した。34 分にセットプレーから先制を許して嫌なムードになりかけたが、その 2 分後に同点に追いついたのが大きかった。相手の DF ラインが高かったこともあり、MF 松本大輝 (4 年) のスピードが生きて 1 ゴール 1 アシストと活躍したほか、前線からの積極的なチェイシングも守備面で効果を発揮した。大石和孝監督も、「3 バックで臨んだが流れの中で危ないところはなかった」と課題であった守備面には及第点を与えた。「やっと原点に戻れた。マイナスが大きいので取り返したい」(大石監督)。

一方の関学大は前節、東海大との対戦が没収試合となり、今節は 2 週間ぶりの公式戦となる。その前の試合は首位の東国大と対戦して 1-4 と完敗しており、この 2 週間が精神的な切り替えを促したかどうかのポイントとなりそうだ。没収試合のため 3-0 の不戦勝となり、順

位としては 5 位タイに浮上したとはいえ、実質的には開幕 2 連勝のあと勝利がない状態。しかも最近の 4 試合で 1 得点 9 失点と攻守のバランスを崩している。「しっかり自分たちのプレースタイルを出せるようになっていきたい」とは東国大戦後の石村大監督のコメントだが、自分たちらしさを取り戻しているかどうか、大事な試合だ。
<出場停止>なし / 3 回警告：田代雅也 (法大)
<昨年の対戦>前期 / 法大 1-1 関学大、後期 / 法大 4-3 関学大

法大		関学大	
23. 三田	27. 田代	6. 木村	8. 山本
14. 松本	28. 西室	10. 橋村	3. 土館
21. 田村	2. 宗近	7. 太田	1. 守山
16. 松田	6. 星	23. 長谷川	4. 久保
18. 鈴木	13. 木村	34. 鈴木	9. 富樫
8. 大野		32. 吉田	

* 予想布陣は直近の試合を参考に作成しています *

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2013-NO.8



編集：五味亜矢子 印刷：関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ

白熱の 7 節、東国大辛くも全勝守る！

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 2 部リーグは、前半戦が残り 3 節となった第 7 節、各地で熱戦が繰り広げられた。まず、首位を走る東国大は朝鮮大を 2-1 とロスタイムで突き放す辛勝ながら全勝を守ったが、2 位の駒大は逆に平国大に 3-4 とロスタイムでの逆転負けを喫し、首位と 2 位の勝点差が 6 と広がった。また、3 位の東学大は接戦の末拓大を 2-1 で下して勝点差で駒大に並び、神大は法大に敗れて順位を落とした。青学大と東農大は両者譲らず 1-1 で引き分けた。なお、関学大-東海大の対戦は、東海大からの出場辞退の申し出を受けて没収試合となり、関学大の不戦勝 (3-0) となった。東海大は 5・6 月の活動を自粛することとなり、前半戦残り 2 試合も不戦敗となることが決まった。

得点ランキング		アシストランキング	
6: 小牟田洋佑 (駒大)	山本 大貴 (駒大)	5: 佐伯 拓磨 (東国大)	3: 高橋 明嗣 (東国大)
5: 星子 直哉 (平国大)	4: 伊東 純也 (神大)	碓井 鉄平 (駒大)	田中 雄一 (駒大)
3: 全 9 名		茶島 雄介 (東学大)	今野 順 (東農大)
		長野 祐太 (神大)	

5 試合すべてが 1 点差引き分けという白熱した第 7 節に見られたように、全チームが、前半戦残り試合に全力を賭けてくる。今節も熱い試合が繰り広げられるに違いない。

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第 7 節終了時)

順位	2部	東国大	駒大	東学大	青学大	東農大	関学大	神大	平国大	法大	朝鮮大	拓大	東海大	勝数	負数	得点	失点	得失差	勝点
1	東国大		1 0 0	2 0 1	未定	未定	4 0 1	1 0 0	5/26	4 0 0	2 0 1	3 0 1	5/19	7	0	17	4	13	21
2	駒大	0 ● 1		5/19	4 0 1	3 0 2	2 0 0	5/26	3 ● 4	未定	未定	2 0 0	4 0 1	5	2	18	9	9	15
3	東学大	1 ● 2	朝鮮大 G		0 ● 1	2 0 1	5/25	未定	3 0 1	未定	2 0 0	2 0 1	2 0 1	5	2	12	7	5	15
4	青学大	未定	1 ● 4	1 0 0		1 Δ 1	0 Δ 0	2 0 1	5/19	4 0 1	1 ● 2	5/25	未定	3	2	10	9	1	11
5	東農大	未定	2 ● 3	1 ● 2	1 Δ 1		3 0 0	1 ● 3	未定	1 0 0	5/19	2 0 0	5/26	3	3	11	9	2	10
5	関学大	1 ● 4	0 ● 2	青学大 G	0 Δ 0	0 ● 3		未定	3 0 0	5/19	4 0 0	未定	3 0 0 (没収)	3	3	11	9	2	10
7	神大	0 ● 1	東海大 G	未定	1 ● 2	3 0 1	未定		3 0 1	1 ● 2	2 0 1	5/19	1 ● 2	3	4	11	10	1	9
8	平国大	朝鮮大 G	4 0 3	1 ● 3	青学大 G	未定	0 ● 3	1 ● 3		1 Δ 1	未定	3 0 2	2 ● 3	2	4	12	18	-6	7
9	法大	0 ● 4	未定	未定	1 ● 4	0 ● 1	東海大 G	2 0 1	1 Δ 1		5/26	1 ● 2	4 0 2	2	4	9	15	-6	7
10	朝鮮大	1 ● 2	未定	0 ● 2	2 0 1	朝鮮大 G	0 ● 4	1 ● 2	未定	朝鮮大 G		0 ● 1	4 0 1	2	5	8	13	-5	6
11	拓大	1 ● 3	0 ● 2	1 ● 2	青学大 G	0 ● 2	未定	青学大 G	2 ● 3	2 0 1	1 0 0		未定	2	5	7	13	-6	6
12	東海大	東海大 G	1 ● 4	1 ● 2	未定	東海大 G	0 ● 3 (没収)	2 0 1	3 0 2	2 ● 4	1 ● 4	未定		2	5	10	20	-10	6

体育会学生のための

リクナビ就職エージェント

負けたら、立ち上がるだけだ。

部活と就活にエールを送る！体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」
<http://job.rikunabi.com/agent/athlete/info02/>



RECRUIT

朝鮮大学校 VS 東京農業大学

5月19日(日)
11:30K.O.
朝鮮大 G

10位の朝鮮大と、5位タイの東農大との対戦。少しずつ調子が上向いている朝鮮大と、粘り強い試合運びを見せている東農大の主導権争いはいかに。

朝鮮大は前節、首位の東国大と対戦し、ロスタイムにオウンゴールで決勝点を与えるという惜敗を喫した。その前の試合で快勝し調子が上向きつつあったことと、首位チームが相手というモチベーションから、「前半の入りが非常に良く、前線と中盤でセカンドボールを拾って押し込めた」(金載東監督)。しかし、その流れの中で得点を奪えなかったことが痛かった。56分にセットプレーから先制を許し、70分に同点とした後は猛攻を仕掛けたが相手の厚い守備を崩せず、ロスタイムに勝ち越しを許した。「流れが良かったにもかかわらず決定的なところまでいけないのが課題」(金監督)。今節は接戦を勝利につなげることができるか。

対する東農大は前節、青学大と対戦して1-1のドローに終わった。お互いに調子を上げつつあった状況での対戦だったが、その中で先制攻撃を仕掛けて先に主導権を握り、12分に先制点を奪った。雨中の試合でグラウンドがスリッピーな中、中盤での主導権争いで互角の勝負を見せたが、徐々に青学大のパス回しに対し受け身に

回ってしまった。後半に入ってすぐの47分に同点とされたが、その後は中盤を支配されながら追加点を許さず勝点1をもぎ取った。「早い時間帯での守備は、マークの受け渡しなど青学大を相手によくできたが、90分通してやれるようにするのが課題」(木村俊夫コーチ)。守備面は向上しているだけに、得点力アップを目指したい。
<出場停止>なし / 3回警告: 慎鏞紀(朝鮮大)、村山翔(東農大)

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

朝鮮大	東農大
24. 鄭壮輝	23. 徳田
17. 高志煌	8. 佐々木
3. 李教俊	15. 小田原
14. 朴利基	10. 浜田
21. 康貴成	14. 石川
1. 李在根	9. 相川
6. 任良太	30. 矢口
22. 慎鏞紀	6. 中垣内
16. 韓勇俊	5. 櫻岡
7. 尹昌洙	11. 井上
23. 安泰永	27. 加藤

平成国際大学 VS 青山学院大学

5月19日(日)
11:30K.O.
青学大 G

前節、駒大に劇的な逆転勝利を飾った平国大と、勝ち切れなかったが4試合負けなしで4位につける青学大との対戦。昨季は意外に少ない得点数での試合が多かったが、平国大が前節の勢いを持ち込めるか。

その平国大は、駒大に1-3とリードされながら、後半だけで3点を奪って逆転勝利を飾った。少ないチャンスを一か所に得点につなげるかが課題であったが、さっそく15分に先制点を奪いながら、駒大の高さの前にセットプレー2本を含む3失点。しかし後半は積極的に攻撃に出ると、受け身に回った駒大を攻め立てて同点に追いつき、最後はロスタイムに勝ち越し点を奪った。駒大に対し、積極的に挑んで4得点したことは大きな収穫。特に2得点のFW 星子直哉(2年)は好調を維持している。「相手の時間があれば自分たちの時間もくるというのを信じてプレーしたのが勝ちにつながった」(野口哲平コーチ)。残り2試合でどれだけ勝点を上積みできるか。

対する青学大は前節、東農大と1-1で引き分けた。4位に浮上し、さらに上位進出を狙って先制攻撃を仕掛けたところだったが、逆に東農大に先手を取られ、12分に早くも失点。守備は安定してきたものの得点力に課題が見えるここ数試合だっただけに、「スタートか

らリスクを冒してゴールを奪おうと話していたが、試合の入り方に反省がある」(宮崎純一監督)。スリッピーなグラウンドに苦労しながらもその後は徐々にゲームを支配し、47分に同点としたが勝ち越しはならず。「厳しい守備の意識は高まってきた。そのうえでどう得点を重ねるか。残り2試合しっかり勝ちたい」(宮崎監督)。

<出場停止>なし

<昨年の対戦>前期/平国大0-1青学大、後期/平国大0-0青学大

平国大	青学大
16. 増田	3. 早田
9. 堀越	18. 関谷
37. 小松崎	16. 京谷
15. 鈴木	10. 木澤
30. 馬屋原	33. 福嶋
18. 星子	8. 後藤
6. 本田	6. 高山
2. 須藤	40. 高橋
11. 千葉	28. 伊藤
13. 竹内	22. 恵
	15. 水島
	20. 服部

東京学芸大学 VS 駒澤大学

5月19日(日)
13:50K.O.
朝鮮大 G

3位の東学大と、2位の駒大という注目の対戦。3連勝で駒大に勝点で並んだ東学大だが、駒大は2位の座を死守することができるか。

東学大は前節、拓大と対戦してロスタイムに決勝点を奪い、2-1で勝ち切った。これで3連勝となり、1試合2点以上という得点力が安定してきたうえ、勝負強さが見えてきた。拓大戦は、西園聡史監督が「苦しい90分間だった」と話したように、前半こそ主導権を握り33分に鮮やかなサイド攻撃から先制点を奪ったが、後半は拓大のスピードあふれる攻撃に押し込まれ、72分に同点弾を許した。なかなか相手の攻撃の流れを断ち切ることはできなかったが、追加点は許さず終盤を迎えると、ロスタイムに来季広島入団内定を決めたMF 茶島雄介(4年)のFKから決勝点。重要な今節に良い流れを持ち込めるか。「徹底してくるチームにどれだけ自分たちのサッカーが通じるか意識して臨みたい」(西園監督)。

対する駒大は前節、平国大に3-1から後半だけで3点を奪われ、よもやの逆転負けを喫してしまった。接戦を勝ち切る試合が続いていただけに、秋田浩一監督が「驕りや慢心があった」と話したのも無理はない。「一つ乱れてしまうと我慢ができない」(秋田監督)という、昨

季の悪い時のような課題が出てしまった。先制点こそ許したものの、28分、29分、32分と立て続けに得点を重ねてゲームを決めたかに見えたが、後半は一転、受け身に回って同点とされ、最後はロスタイムに勝ち越し点を許してしまった。首位との勝点差が開くことになり悔やみ切れない敗戦だが、残り2試合で取り返すしかない。「やることは変わらないので、問題は気持ち」(秋田監督)。

<出場停止>なし

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東学大	駒大
5. 廣木	16. 柳川
14. 佐藤	17. 平野
4. 脇本	27. 斎藤
7. 山崎	4. 平尾
30. 平田	6. 若山
12. 須賀	1. 大石
10. 茶島	7. 碓井
2. 大里	10. 山本
11. 遠藤	5. 伊藤
8. 佐々木	11. 小牧
28. 吉田	3. 田中

神奈川大学 VS 拓殖大学

5月19日(日)
13:50K.O.
青学大 G

3連敗中の神大と、4連敗中の拓大という、苦しい状況にいるチーム同士の対戦。連敗を抜け出すのはどちらか。

神大は前節、法大と対戦して1-2で敗れた。最下位脱出に必死な法大に勢いがあったことは確かだが、前半は冷静な試合運びで34分にセットプレーから先制点を奪っただけに、その2分後にサイド攻撃から許した同点弾が痛かった。結果的にはそれが法大の勢いを取り戻すきっかけとなってしまい、後半は中盤のセカンドボールを支配され、53分に逆転を許した。相手がシステム変更で厚くしてきた中盤の主導権争いに敗れた格好になったが、相手のスピードある2トップを止め切れなかったのも敗因。「流れが悪いのは確かだが、ここでブレないように継続してやるのが大事」(高峯弘樹監督)。セットプレー以外の得点が少ないのが気がかりで、「ゴール前の精度やアイデアが課題」(高峯監督)。

対する拓大も前節、東学大に1-2で敗れた。それも後半ロスタイムでの失点と、連敗中の立場には一際こたえる敗戦であった。玉井朗監督が「前半はアグレッシブな守備がなく、相手のなすがままになっていた」と話したように、前半はゲームを支配され、先制点を許した。

後半は一転、守から攻への切り替えが鋭くなり、攻撃時はシンプルに仕掛けて72分に同点としたが、攻め込みながら2点目が奪えず。最後はロスタイムにセットプレーから追加点を奪われた。競り合いで勝てない苦しい試合が続いているが、今は我慢の時だ。神大には昨年の総理大臣杯予選で敗れているが、「完敗したからチャレンジ精神で臨める。アグレッシブにいきたい」(玉井監督)。
<出場停止>なし / 3回警告: 杉山祐亮(神大)
<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

神大	拓大
3. 高木	2. 西本
10. 伊東	15. 長沢
34. 西袋	3. 丸山
7. 長野	20. 片
31. 池村	27. 土屋
16. 前田	11. 内野
2. 柿崎	7. 川崎
4. 向山	4. 菊野
22. 伏木	9. 西岡
6. 秋山	23. 小針